

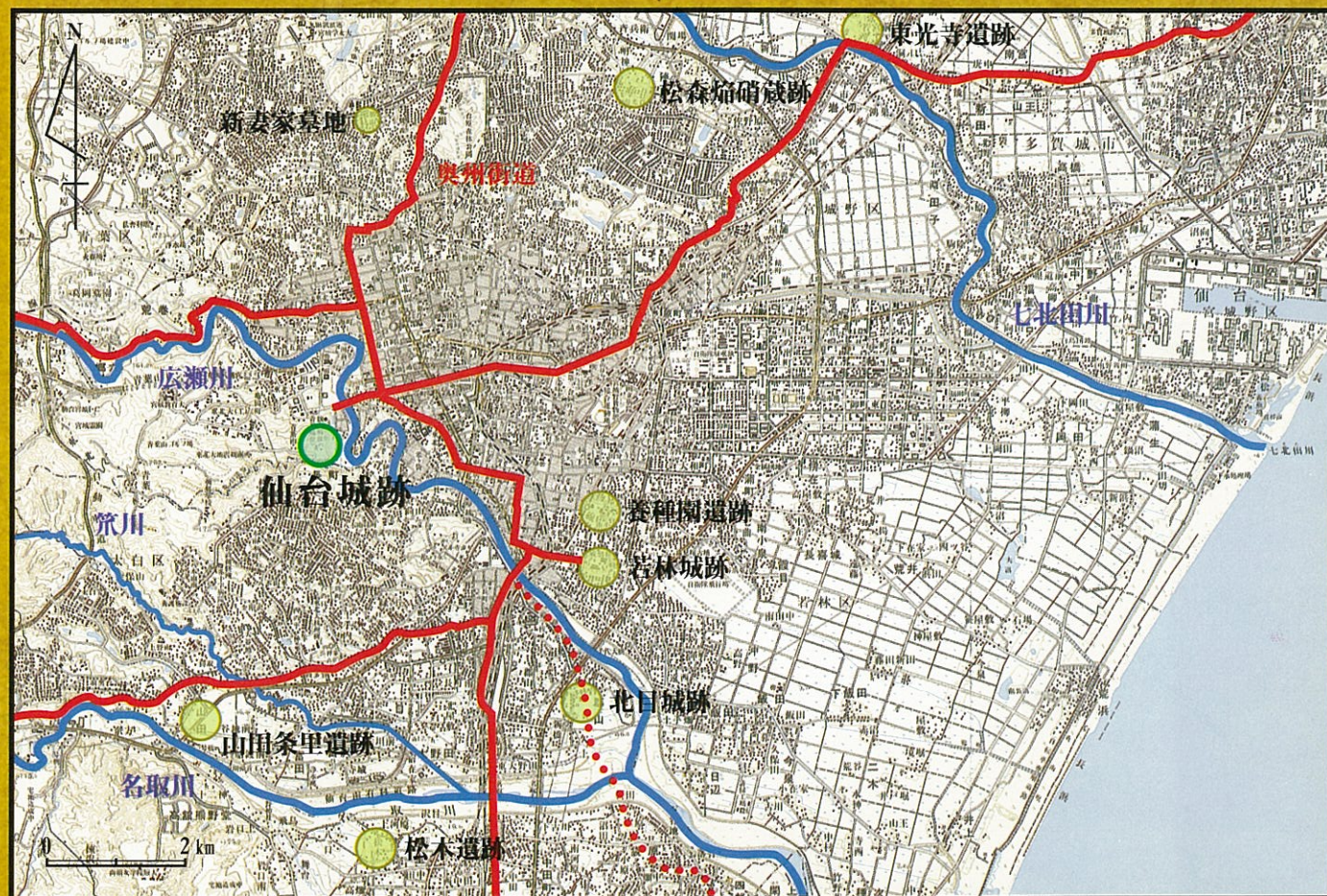
関係年表

年号	西暦	仙台藩関連の主な出来事	展示遺跡	全国の主な出来事
慶長5年	1600	政宗、千代を仙台と改め、城普請の縄張を開始	南小泉遺跡 北目城跡	1600 関ヶ原の戦い イギリス東インド会社設立
慶長6年	1601	政宗、仙台城普請を開始		1602 オランダ東インド会社設立
慶長8年	1603	仙台城ほぼ完成、政宗、岩出山より移る	養種園遺跡	1603 家康、征夷大将軍となり江戸幕府を開く
慶長12年	1607	大崎八幡宮・陸奥国分寺薬師堂完成		1609 オランダ、平戸に商館を置く
慶長15年	1610	仙台城大広間完成		1612 家康、キリスト教を禁止
慶長18年	1613	政宗、支倉常長をローマに派遣		1614 大坂冬の陣 1615 大坂夏の陣 1616 家康、死去 1623 家光、将軍となる
寛永5年	1628	若林城完成	若林城跡	1635 参勤交代制の確立
寛永13年	1636	政宗、江戸桜田邸で死去、忠宗二代藩主となる		1639 鎖国
寛永14年	1637	瑞鳳殿完成		
寛永16年	1639	仙台城二の丸完成		
承応3年	1654	東照宮完成		
寛文11年	1671	伊達騒動起こる		
元禄元年	1688	元禄年間の二の丸改造（1700年頃まで）	松森焔硝蔵跡	
文化元年	1804	雷火のため二の丸全焼	松木遺跡 東光寺遺跡 山田糸里遺跡	1825 異国船打払令 1867 徳川慶喜、大政奉還
慶応4年	1868	仙台藩降伏、戊辰役終る		1871 廃藩置県
明治2年	1869	版籍奉還に伴い、二の丸に勤政庁設置		

仙台開府四百年記念

仙台城とその時代

—城とまらのくらし—



仙台市内の主な近世遺跡など



表紙の写真は、伝仙台城城門鯉瓦、北目城跡出土漆器



はじめに

仙台藩祖伊達政宗による仙台的開府から四百年を経た今、仙名城本丸跡の石垣解体工事に伴う発掘調査で、北面の石垣が3回、江戸時代に造り直されていたことがわかってきました。また、本丸の建物跡や礎石群も発見され、築城期に使われていた金箔瓦や高級陶磁器、ヨーロッパ産のガラス器などの出土も相次ぎ、これまで謎であった仙名城本丸の実態が少しずつ、解明されようとしています。

今回の文化財展では、これまでに市内の発掘調査で出土した、江戸時代の遺跡からの遺物を用途別に展示しており、仙名城と町や村の暮らし振りを比べてみたいと思います。土の中に残された当時の生活の姿を、実物資料でご覧下さい。

住まう

遺跡の調査では、地中に残された建物や溝など、昔の土木工事の痕跡を「遺構」とよんでいます。発掘調査では、地上部分については不明な点が多いのですが、遺構として残された住まいについて、古代までは土を掘りくほめた「たてあな堅穴」に柱を立てて屋根を葺いた堅穴住居に主に住んでいましたが、次第に、穴に柱を立て地表に土や板壁をもった「掘立柱建物」が多くなってきます。古代の役所や寺には礎石を用いた建物が出現し、瓦葺きの建物が大陸文化の影響で流行してきます。瓦葺きの建物は火災にも強く荘厳ですが、その重量に耐えるためには太い柱を使うために大規模な工事を必要とし、国家権力に関わる役所や有力者の屋敷などに瓦屋根の使用は限られていました。近世に入ると、城郭の建物や寺社に瓦葺き建物が採用されることが多く、江戸時代中期ころからは、度重なる火災の延焼をくいとめるために、城下町の建物にも瓦葺きの建物が普及してきます。



「芭蕉の辻」図部分 仙台市博物館蔵



仙名城大手門（古写真） 右上は大棟の鯨瓦部分の拡大写真

仙名城城門の鯨瓦 しゃち



0 20cm

伝仙名城城門鯨瓦（個人蔵）

仙台城の建物については、戦災で焼失する以前の大手門や翼門の古写真が残っており、その屋根には鯨瓦や家紋かたど模った軒瓦が使われていたことがわかります。

本丸や二の丸、三の丸跡の発掘調査では、大量の瓦を出土しており、その細部や文様の変遷とともに瓦使用の実態がようやくわかってきています。築城期には、三巴文や菊・桐紋を主体としており、九曜や三引両の家紋瓦は17世紀中葉の二代藩主忠宗の時代になってから盛んに使用され始めたようです。

市内にお住まいの市民の方から、明治時代に入手した、清水門などの仙名城城門に葺かれていたと伝わる鯨瓦をお借りして展示しています。この鯨瓦は、尾鯨部分を欠損していますが、全長が81cmほどもあって、顔面部分や鱗、鯨の描写が写實的に作り出されています。本丸跡から出土した鯨瓦の破片も、鯨の胴部で上下に分割して焼いており、胸鯨や腹鯨は差込式となっています。また、各地の城郭出土の鯨瓦と比較すると、江戸時代初期の鯨瓦は鯨の部分が線刻で表現されているのが特徴のようです。



仙名城本丸跡出土破片から推定復元

仙名城大手門鯨瓦
(昭和20年7月の空襲で焼失)

甲府城跡出土鯨瓦
山梨県埋蔵文化財センター蔵

食べる・飲む



仙台城本丸跡の中国磁器 (17世紀前半)

遺跡からは大量の遺物が出土しますが、その種類は時代とともに増え、食生活の充実がうかがえます。そのなかでも、食事にかかわる什器は江戸時代以降、現在の生活用品と類似してきます。

ただ、城からの出土遺物は、藩の公式行事としての饗応や、藩主の生活にかかわる茶器などの遺物がまとまって出土しており、本丸や二の丸などの曲輪や「場」の性格をしめしています。

本丸跡で出土した磁器には、遺跡からの出土が稀な、中国の景德鎮窯で焼かれた日本からの注文品が目立っています。



祥瑞蔓草文変形皿 (中国・景德鎮窯)



古染付蝶文葉形皿 (中国・景德鎮窯、復元)



青磁陰刻牡丹文皿 (肥前・波佐見産、復元)

二の丸は、寛永年間の造営以来、幕末まで藩の行政府と藩主の生活の場として使われ続けました。火災のたびに焼失した建物は建て直され、その変遷が絵図や発掘調査で確認されています。江戸時代初期の輸入品を主とした陶磁器の出土傾向は、鎖国や国内産業の興隆によって、国産品主体へと変化していきます。



仙台城二の丸跡の陶磁器 (18世紀)



養種園遺跡の陶磁器 (16世紀後半～17世紀初め)



東光寺遺跡の陶磁器 (18～19世紀)

仙台市内では、若林区の南小泉遺跡や養種園遺跡から、堀や溝で区画された江戸時代初期の遺構群が発見されており、伊達政宗の晩年の「屋敷地」であった若林城下に関係する遺跡です。また、この付近には、16世紀代の鍛冶遺構や建物群も発見されており、伊達氏の仙台入府以前の「都市」として注目されています。

農村部では有力農民の屋敷跡(太白区山田条里遺跡・松木遺跡)や、寺院の門前の河川への廃棄遺物(若林区東光寺遺跡)など、陶磁器と木製品などがまとまって出土しています。

19世紀に入ると、福島県(会津・相馬)や山形県(平清水)、宮城県(堤、切込、宮床)など、東北地方の窯が相次いで生産を開始し、出土陶磁器にもみられるようになってきます。



山田条里遺跡の陶磁器 (18～19世紀)

- 1 染付山水文皿 (肥前・幕末～明治)
- 2 磁器桜花文手塩皿 (幕末～明治)
- 3 なまこ袖鉢 (堤・幕末～明治)
- 4 白濁釉片口 (大塚相馬・幕末～明治)
- 5 染付小环 (明治以降)
- 6 染付くらわんか手碗 (肥前・18世紀)
- 7 染付笹文蓋 (幕末～明治)
- 8 山水文土瓶 (大塚相馬・幕末～明治)
- 9 染付摺絵碗 (明治)
- 10 染付徳利 (幕末～明治)

祈る

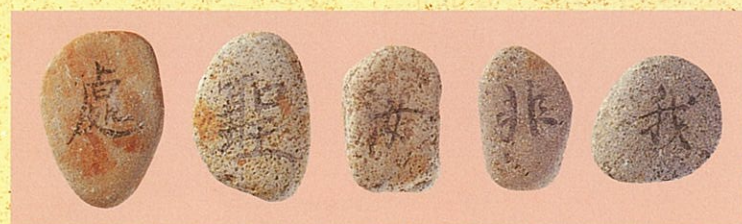


仙名城本丸跡の水晶

「祈り」の姿を伝える考古資料には、墓からの出土品がありますが、仙名城本丸跡の一角からは、大量の水晶が出土しています。遺構に伴う出土ではありませんが、現存石垣（Ⅲ期）の工事の盛土に混入しており、「地鎮具」として使用されたものとみられています。

また、青葉区東昌寺の境内からは、二代藩主忠宗の法名「義山崇仁大居士大慈院殿」を墨書で記した経石など25点を出土しており、卒去した万治元年（1658）に執り行われた法事に関わる経石とみられています。

青葉区北根の新妻家墓地の調査で、寛文11年（1671）から明治13年（1880）までの28基の墓と副葬品を検出しています。新妻家は伊達家の家臣で、墓地の特徴や葬法を知る貴重な資料です。副葬品には寛永通宝（六道銭）や煙管・櫛を出土しており、現在と同様に、身分や階層を超えて一般的なことがわかります。



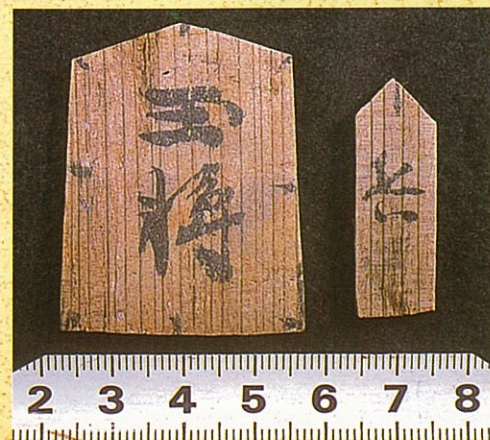
東昌寺裏の経石（一字一石経）
（左から、「處」、「聖」、「汝」、「非」、「我」）



新妻家墓地の出土品（左から、埴焼甕棺・61.2cm、柄鏡、太刀、大堀相馬焼碗）

遊ぶ

仙名城本丸跡からは、将棋の駒が出土しています。進行方向に墨で線を書き込んだ駒は、本丸で娯楽に興じた武士の遊び心を思い起こさせてくれます。



仙名城本丸跡の将棋の駒（17世紀前半）

埴人形は、遺跡から出土する遺物でも、多くみられる玩具です。元禄年間に開窯されたとされる埴焼（青葉区埴町）では、陶器のほかにも伏見人形をならって、粘土を型抜きして焼成した後、植物染料の蘇芳で彩色される土人形を焼いており、その伝統は現在にも引き継がれています。



東光寺遺跡の埴人形（18～19世紀）

トピックス

仙名城跡の発掘調査



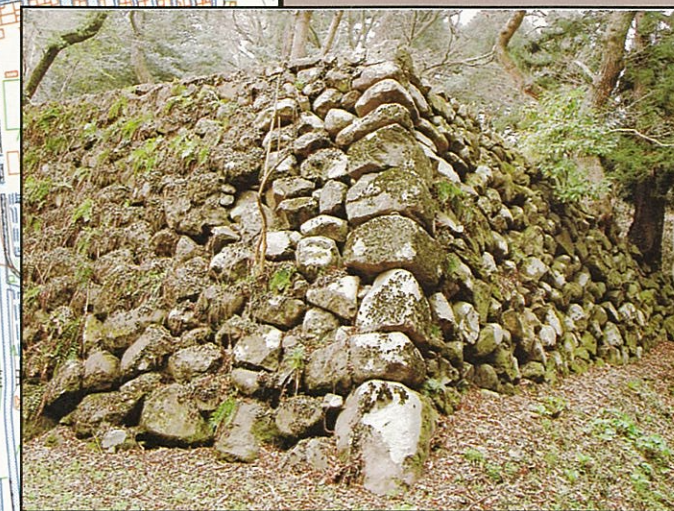
発掘調査風景（大広間推定地）

今年度から、仙名城跡の全体像を明らかにする目的で、学術調査が始まりました。調査は石垣や遺構の遺存状況を測量調査や発掘調査で確認し、遺構分布や石垣の破損状況などについて調べていく予定です。

調査地点や内容については、仙名城跡調査指導委員会（齋藤鋭雄委員長、以下学識者6名）による指導助言を受けながら進めていきますが、第1期5カ年計画の初年度となる平成13年度は、本丸大広間付近の遺構確認調査と、三の丸跡の南、清水門付近の石垣測量調査を実施していきます。



仙名城跡と調査区位置図（★は今年度の調査地点）



清水門跡付近の石垣